

奈良県新総合計画

本県における総合開発計画は、戦後、農業用水の確保を主とした十津川・紀の川（吉野川）総合開発計画に始まり、その実施途上、国土総合開発法による特定地域として吉野熊野が指定され、熊野川（現新宮川）水系の発電と森林資源開発を主とした吉野熊野特定地域総合開発計画が策定されました。これにより昭和31年度を初年度とし、電源開発、林産資源開発、農産資源開発、国土保全事業、交通条件整備事業等が実施されてきました。

昭和38年には、奈良県新総合開発計画を策定し、大都市近郊としての機能を受け持ち、工業開発を主軸とした発展を期待し、その時代に即応してきました。

その後、経済の高度成長がもたらしたひずみの是正を図るため、昭和43年に昭和50年を目標年次とする第2次奈良県新総合開発計画を策定し、土地利用計画の策定とその方向づけ、公害防止条例の制定と施行、水需給の長期見通しとその対応策をはじめ、自然環境保全条例の制定施行等、緑地の保全、県営上・下水道の着工等に取り組むとともに産業基盤の整備、社会福祉事業等それぞれの事業を実施してきました。

昭和48年には、人間生活優先、環境重視の対策をさらに充実強化すること等を柱に、目標年次を昭和60年とする県長期基本計画（第3次）を策定し、古都保存特別地区の公有化、大気汚染測定局の整備等の環境の保全、大和川上流域下水道、大洲池公園等都市公園の整備等、生活・産業基盤の整備、高等学校の新設等教育環境の整備及び県立奈良病院の開設等医療の確保等、各般にわた

る施策を積極的に推進してきました。

その後、さらに自然環境の保全と良好な居住環境の確保、公害の防止等に力をそそぐことを主眼として、昭和51年度には、長期的な展望に立った将来の適正人口の検討を行いました。その結果に基づき、さきに策定した第3次計画の目標人口169万人を143万人に変更しました。

さらに、昭和52年度には、適正将来人口の新たな設定に伴い、第3次計画の基本的方向は堅持しながら修正を行い、昭和53年に県長期基本計画（第3次）〔修正計画〕を策定しました。

その後、21世紀を展望しながら、美しい自然環境のもとで、健康で豊かな家庭生活を築きつつ平和で楽しい社会生活を共にし、世界各国とも直結した奈良県づくりの指針となる計画を策定するため、昭和59年に経済の繁栄をめざした「県長期基本構想」を策定しました。

さらに、その後の社会経済情勢の変化・進展や構想・計画段階であった事業の具体化も進んできたため、県長期基本構想の基本的な方向は堅持しつつも新たな施策を展開していくため「県長期基本構想（修正）」を策定しました。

さらに、社会の新たな潮流や本県の特性・課題を踏まえ、新しい奈良県づくりの指針となる「県新総合計画」を策定しました。

奈良県新総合計画の概要（平成7年3月策定）

〈計画策定の趣旨〉

- ・時代の動きを的確にとらえ、国内外に注目されるような、存在感のある地域としての発展をめざし、時代を先取りした施策を進めるため、新たな総合計画を策定

〈計画の役割〉

- ・県の最上位計画として、県の目指すべき目標や施策の基本的方向を明らかにする県政運営の基本方針
- ・県民や企業の協力、参加や市町村の県との一体的な施策推進を期待
- ・国や関係府県に対して、計画実現に向けて支援や協力を要請

〈目標年次〉

- ・21世紀初頭を展望しつつ、平成17年度（2005年度）を目標年次とする。

基本構想編

(1) 将来の奈良県づくりに向けた課題

〈社会の新たな潮流〉

- 人間性への回帰、自然志向の高まり
- 少子・高齢化

- 先端技術化・高度情報化の急速な進展
- 経済のソフト化・サービス化
- 新地方の時代
- 地球社会との共存

〈本県の特性と課題〉

- 奈良県盆地とその周辺地域への人口や諸機能の集中
- 人口減少、高齢化が進む山間地域の活力維持
- 交通基盤、水資源、下水道など生活基盤整備の充実
- 県内における関西圏の新たな中枢拠点の形成
- 商業、業務機能の京阪神大都市圏への依存
- 歴史的・文化的資源や豊かな自然環境の積極的な活用
- 関西圏、全国主要都市とのモビリティの向上
- 農林業、中小企業をはじめとした産業の高度化と新たな産業の展開

(2) 奈良県づくりの基本理念及び基本目標

21世紀における新しい奈良県を創造するにあたって、人間性への回帰や自然志向の高まりといった社会の新たな潮流を踏まえ、「遊」の考え方に沿って次の基本理念及び基本目標を設定します。

〈基本理念〉

めまぐるしく変化する時代の中で、文化、歴史、自然といった本県の優れた資産を積極的に生かし、住む人、訪れる人が、やすらぎや憩いを感じ、多彩な交流を通して充実した時を過ごすことができる奈良県となることが求められています。

このことから、本計画を貫く基本理念を次のとおり設定します。

- 心の豊かさやゆとり、生きがいを感じられる
- 多様な選択が得られる、個性を大切にす
- 人と人とのふれあい、コミュニケーションを大事にする

〈基本目標〉

世界に光る奈良県づくり

本県の優れた特性を最大限に生かし、新しい時代にふさわしい個性と魅力に満ち、内外から注目されるような、存在感のある地域となることをめざします。

(3) 奈良県の将来像

基本目標である「世界に光る奈良県づくり」に沿って、21世紀初頭（2020年～2030年）に築き上げたいと考えている奈良県の将来像を描きます。

〔個性と特性を生かして世界へ飛躍している奈良県〕

- 本県の各地域がもつ恵まれた生活空間は、個性と魅力ある地域づくりを通して、一層価値あるものに高められ、国内外から注目される話題性のある地域となっています。
- 新たな文化創造が進む国際的なふれあいと交流の拠点となっています。

〔安心と安らぎのある生活が充実している奈良県〕

- すべての人びとが安全で安心して暮らせるまちづくりが実現し、高齢者や障害者の自立と社会参加が進んでいます。
- 県民は生涯にわたって健康で安心した生活を営むとともに、環境にやさしい生活や経済活動を展開しています。

〔利便性と快適性のある生活舞台が

形成されている奈良県〕

- 交通、情報・通信ネットワークが高度に整備され日常生活に便利な機能やさまざまな高次な機能が県内各地域をカバーしています。
- 農林業や地場産業は生産性を高め、「生活文化提案型産業」など新たな産業が成長しています。

(4) 主要プロジェクト

将来像の実現に向けて、効果的、重点的にプロジェクトを推進します。

【個性と特性を生かした世界への飛躍】

① 歴史街道構想を活かした奈良県づくり

- 歴史街道の形成
- 歴史体験の仕掛づくり
- 歴史文化を生かした地域づくり

② 関西文化学術研究都市の建設

- 学研都市の中核的地区（高山地区）の形成
- 日本の新しい文化拠点（平城京跡地区）の形成
- 学研都市の先導的複合都市拠点（平城・相楽地区）の形成
- 次代への対応（北田原地区）
- 広域的な交通施設、情報通信基盤整備

③ 21世紀に飛躍する「情報発信基地・奈良」づくり

- 新たな歴史の扉を開く「平城遷都1300年」への展開
- 総合的な情報センター－新県立図書館－の整備
- （仮称）万葉ミュージアム構想の推進
- 観光・コンベンションに関する情報の基地づくり

【安心とやすらぎのある生活のしくみづくり】

① 安心とやすらぎのある生活環境づくり

- 保健、医療、福祉サービスの充実
- 住みよい福祉のまちづくりの推進
- 「県営福祉パーク」の整備
- 地域ケアの総合的展開

② だれもがいいきと暮らし過ごせる地域社会の形成

- 高齢者の生きがいと活躍の場の創造
- 健康づくりの推進
- ボランティア活動の推進
- 安心子育ての支援
- 男女共同参画社会の形成

③ 明日を担う人材育成

- 豊かな個性と主体性を備えた人材の育成
- 21世紀の奈良県を担う青少年の育成
- 地域の活力と個性を担う人材育成
- 長寿社会を支える人材育成

【利便性と快適性のある生活舞台づくり】

① 交流・連携の推進

- 広域的な幹線道路網の整備
- 近畿圏の新たな玄関口の形成

- 太平洋新国土軸の形成
- 半日交通圏道路網の形成
- 公共交通網の整備
- 情報通信基盤の整備

② 先導拠点の形成

- 中和地方拠点都市地域の形成
- 大和高原における拠点の形成
- 南和の拠点となる都市圏の形成
- 森林文化ゾーンの形成

③ 地域に活力とうるおいをもたらす産業の振興

- ビジターズインダストリーの推進
- 生活文化提案型産業の振興
- 農林業の新しい展開
- 関西文化学術研究都市の波及効果の活用

④ 地域アメニティの形成

- 奈良らしい景観の形成
- いこいとやすらぎの空間づくり
- 環境にやさしい社会づくり

⑤ 生活を支える基盤づくり

- 水資源の安定的確保と水道の整備
- 下水道等の整備

地域別計画編 ー各地域の発展方向ー

[大和平野地域]

- 近畿圏のセンターゾーンの一翼としての発展
- 魅力ある生活環境を有した生活文化ゾーンの形成
- 国際的な広域観光ネットワークの形成
- 高度な産業集積の促進
- 心豊かでゆとりのある地域の形成
- 特性を生かした地域の発展

〈北 部〉

- ・リニア中央新幹線奈良駅を核とした関西エリアをカバーする高次都市機能の整備
- ・関西文化学術研究都市の整備による新しい都市圏の創造

〈中南部〉

- ・中和拠点都市地域の形成による本県の発展を先導するもう一つの都市圏域の整備
- ・鉄道駅周辺の再整備等による商業・業務機能、文化、居住等の機能の強化

〈東 部〉

- ・研究開発機能、新産業育成機能の展開、保養レクリエーション機能の形成
- ・働き、憩う場と一体となった郊外居住機能の整備

〈西 部〉

- 居住機能に加え、文化、商業など様々な機能をもった利便性が高く、暮らしやすい地域の形成

[大和高原地域]

- 交流・連携の推進
- 観光・保養・レクリエーションゾーンの形成
- 新たな産業ゾーンの形成
- 魅力ある定住環境の形成
- 特性を生かした地域の発展

〈北 部〉

- 新たな産業機能の形成
- 観光・保養・レクリエーション機能の形成
- 良好な居住機能を備えた地域の形成

〈南 部〉

- 商業・サービス業の集積など都市機能の整備
- 居住機能と産業機能の一体的な整備
- 観光・保養・レクリエーションゾーンの形成

[五條・吉野地域]

- 交流・連携の推進
- 観光・保養・レクリエーションゾーンの形成

- 豊かな自然を生かした産業振興
- 安心して生活できる居住環境の形成
- 特性を生かした地域の発展

〈北 部〉

- 生産・物流機能、商業機能、居住機能が集積した南和地域の発展をけん引する中核的都市圏の形成

〈南 部〉

- 都市との交流を通じた地域の活性化
- 林業技術の交流等を通じた国際貢献を果たせる地域としての発展

分野別基本計画 ー施策展開の方針と体系ー

基本目標である「世界に光る奈良県づくり」や21世紀初頭の奈良県の将来像を実現するため、次の7つの分野別施策方針によって、各分野の諸施策を総合的・体系的に推進します。

1. 21世紀に羽ばたく奈良県の基盤づくり

- 交通・情報通信ネットワークの整備
- 水資源・エネルギー対策
- 生活基盤の整備
- 都市・農山村の整備

2. 生きがいと誇りの持てる長寿社会の実現

- 安心して、いきいきと暮らせる地域社会の形成
- 社会福祉の充実
- 保健・医療、健康づくりの充実

3. 地域の特色を生かした特色ある産業振興

- 新しい産業機能の充実
- 農林業の振興
- 工業、商業、サービス業の振興
- 労働環境の整備

4. 「国際文化観光・平和県」への着実な進展

- 国際化の推進
- 文化・学術研究の振興
- 観光の振興
- 歴史街道構想を活かした奈良県づくり
- 人権政策の推進

5. 快適で明るい社会の実現

- 快適な生活環境の形成
- にぎわいと活力ある地域づくり
- 生活の安全確保

6. 視野の広い、明るく、たくましい人づくり

- 生涯学習社会の構築
- 長寿社会を支える人材の養成、確保

- 青少年の育成
- 地域活動の推進
- 新しいライフスタイルへの対応
- 男女共同参画型社会の実現

7. 均衡ある県勢の発展と総合的な地域づくり

- 均衡ある県政の推進
- 広域連携による総合行政の推進

人口、経済の将来見通し

〈人口の見通し〉

(単位：千人)

	1990年	2005年	2010年(参考)
大和平野地域	1,212	1,430	1,496
大和高原地域	61	64	65
五條・吉野地域	102	101	101
計	1,375	1,595	1,662

	1980~1990	1990~2005	2005~2010
県人口の年平均伸び率(%)	1.29	1.00	0.83

〈経済の見通し〉

(単位：億円)

	1990年	2005年	2010年(参考)
第1次産業	667 (2.1%)	546 (1.0%)	498 (0.8%)
第2次産業	12,747 (40.1%)	22,029 (40.0%)	25,619 (40.3%)
第3次産業	18,338 (57.8%)	32,461 (59.0%)	37,517 (58.9%)
計	31,752 (100%)	55,036 (100%)	63,634 (100%)

	1985～1990	1990～2005	2005～2010
年平均伸び率(%)	5.61	3.73	2.95

計画推進のために

「分かりやすい県政」「切れ目のない県政」、また「未来を見つめる県政」を基本姿勢とし、計画の実現に向けて積極的に取組を進めます。

- 県民総参画による計画の推進
- 地方分権の推進
- 市町村、国、近隣府県との連携推進
- 組織・機構等の整備
- 財政の効率的運営
- 計画の進行管理

県民の歌

萩原 四朗 作詞
福島 正二 作編曲

一、吉野のさくら 畝傍山
歴史を染めて 陽がのぼる
大和の国に 住む欲びを
肩よせて誇る 奈良県民――
おお！ 頼母し

三、近畿の要め 文化の府
花咲く明日に 夢かけて
大和の国に 溢れる幸を
たからかに謳う 奈良県民――
おお！ 美し

二、山路を拓き 野を起し
豊かに実る 秋を呼ぶ
大和の国は いま健やかに
眉あげて進む 奈良県民――
おお！ 逞し

県民音頭

木村 龍平 作詞
長津 義司 作編曲

一、ハアー一つ二つ花びら重ね
アヨイヨイヨイ
夢を重ねた八重桜
アヨイシヨ
花の上から大仏さまが
話しかけます呼んでます ソレ
ホンニヨシヨシおおによし
みんないっしょに
ソレヨイヨイ来て踊れ

三、ハアー三つ四つの都の跡を
アヨイヨイヨイ
今にのこした奈良平野
アヨイシヨ
紅葉狩りした大宮人の
烏帽子姿が目につかぶ ソレ
ホンニヨシヨシおおによし
みんないっしょに
ソレヨイヨイ来て踊れ

二、ハアー二つ三つときれいな峯が
アヨイヨイヨイ
顔をそろえた雲の上
アヨイシヨ
奥の山やまみどりに晴れて
すそは吉野の花模様 ソレ
ホンニヨシヨシおおによし
みんないっしょに
ソレヨイヨイ来て踊れ

四、ハアー四つ五つと五重の塔の
アヨイヨイヨイ
屋根はかがやく空たかく
アヨイシヨ
大和よいとこ世界に誇る
古い文化の宝庫 ソレ
ホンニヨシヨシおおによし
みんないっしょに
ソレヨイヨイ来て踊れ

奈良県勢要覧 2000 (平成12年)

発行日：平成12年3月31日

編集：奈良県統計課

発行：奈良県統計課

〒630-8501 奈良市登大路町30
TEL (0742) 22-1101
(内線 2615・2616)

印刷：株式会社 平井眞美館

奈良市西木辻町59
TEL (0742) 23-3775(代)
